

## 基本目標 6 定住・交流を支えるまちづくり

### 後期計画の方向性

町に暮らす人や関わる人の確保や、暮らしに必要な基盤整備によって、東栄町での暮らしを支えるとともに、町外とつながることができる町



町は大きな木。町の人、大きな木の中で自分の暮らしにあった場所を選んで生活しています。木の枝は、暮らす場所と、暮らしに必要なものがある場所を結びます。時には、水をあげたり、添え木をしたりして手入れが必要です。この木の枝がしっかりと伸びていくと、近くの木とも行き来できます。

まちに暮らす人が、安心して大きな葉っぱの上でのびのびと暮らせるように、大きな木を大切に育てます。

## 現状と課題

### 【現状】

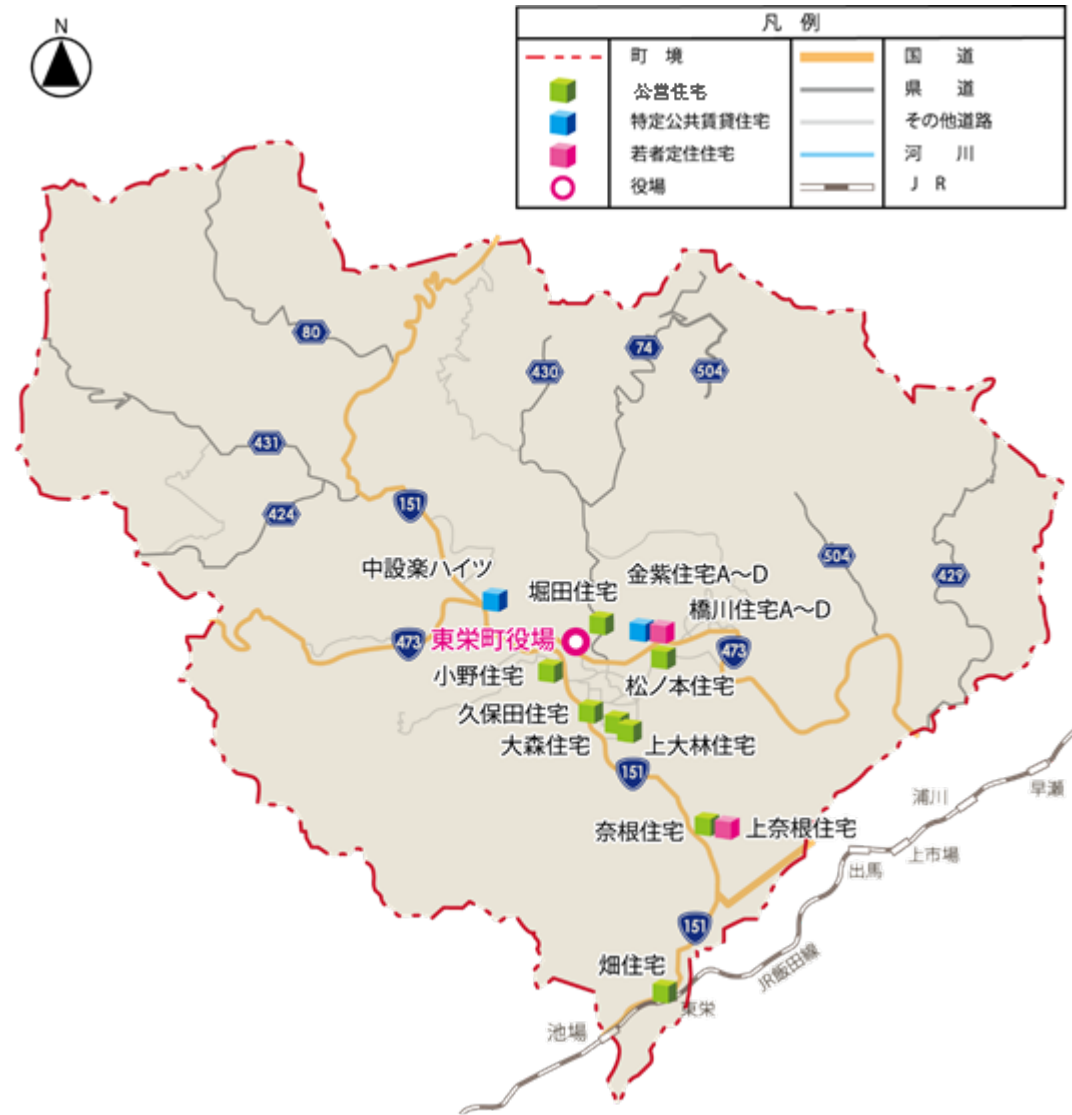
- ・公営住宅の9割が耐用年数を経過し、維持費がかかるため対策が必要となっており、1団地4戸を平成30年度に用途廃止し、令和元年度に除却しました。
- ・平成27年度より公営住宅等長寿命化計画に基づき、主に住宅の屋根・外壁の改修工事を行っています。
- ・近年は新型コロナウイルスの影響もあり、田舎暮らしを希望する都市部の人々から町内の空き家<sup>14</sup>の問い合わせが増えています。
- ・町では従来から取り組んでいる空き家バンク制度の運用に加え、情報提供のための民間事業者との連携等により空き家の利活用を図っています。これに伴い、空き家バンクを通しての成立件数は年々増加傾向にあります。
- ・町が空き家を借り受け、改修し、Iターン者に賃貸する定住促進空き家活用住宅事業も実施しており、定住者の確保に一定の成果をあげています。
- ・町営住宅から空き家へ転居、賃貸物件から家屋購入・家屋建設など町内移住（転居）の傾向が見られます。
- ・暮らす場所（住宅・家屋）だけでなく仕事や地域、教育などの情報も漏れなく伝えられるよう行政内の連携をしています。
- ・空き家等の発生の未然防止、管理の適正化、流通・利活用対策等の推進を目的に、町と一般社団法人愛知県古民家再生協会が「東栄町における空家等古民家の活用に関する包括連携協定」を締結しています。また、町と町内の不動産事業者の間で「東栄町空家等情報活用制度に関する協定」を締結し、情報共有によって空き家利活用の促進に取り組んでいます。

### 【課題】

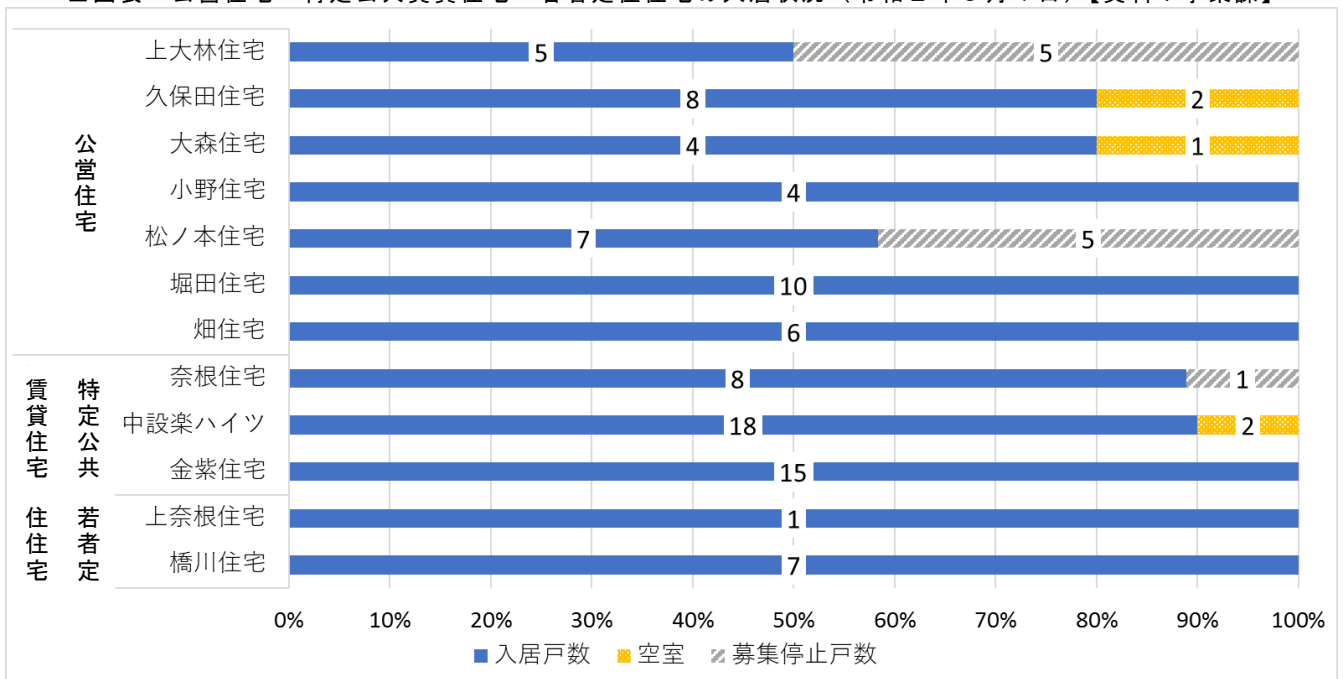
- ・町内には町営住宅が12団地109戸あり、老朽化により募集停止している空き家を除くと94.9%の入居率となっており、希望する住宅に入居できない状況にあります。
- ・町営住宅への入居希望者は単身・高齢者世帯が多い一方、世帯向けの物件が多数を占めることから、希望通りの間取りの住宅が提供できていない場合があります。

<sup>14</sup>空き家の表記について：法令、制度、協定等（以下「法令等」という。）に関するものは当該法令等に従って表記しています。それ以外については、一般的な表記に習い「空き家」との表記としました。

■図表 公営住宅・特定公共賃貸住宅・若者定住住宅の町内位置図(令和2年9月1日)【資料：事業課】

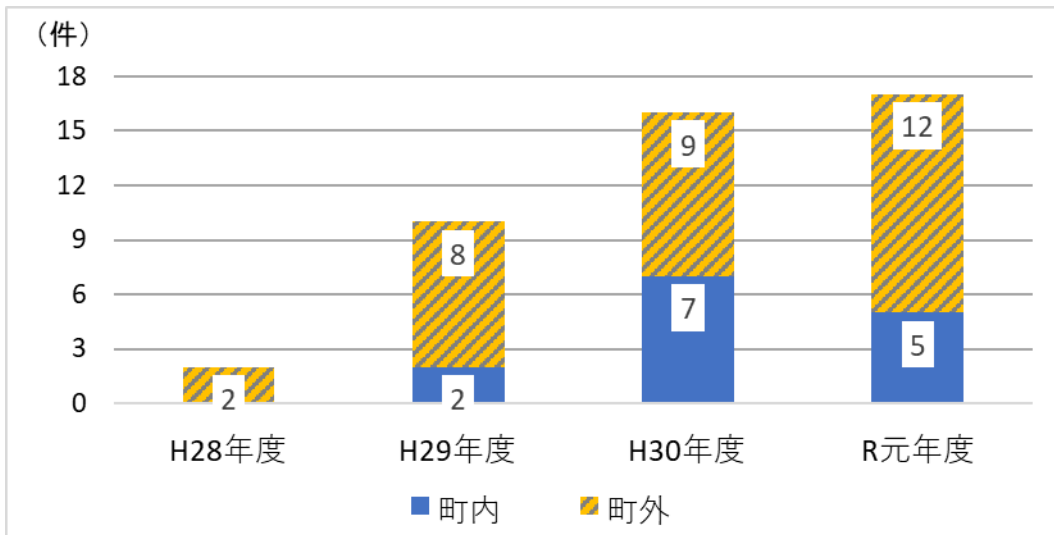


■図表 公営住宅・特定公共賃貸住宅・若者定住住宅の入居状況(令和2年9月1日)【資料：事業課】



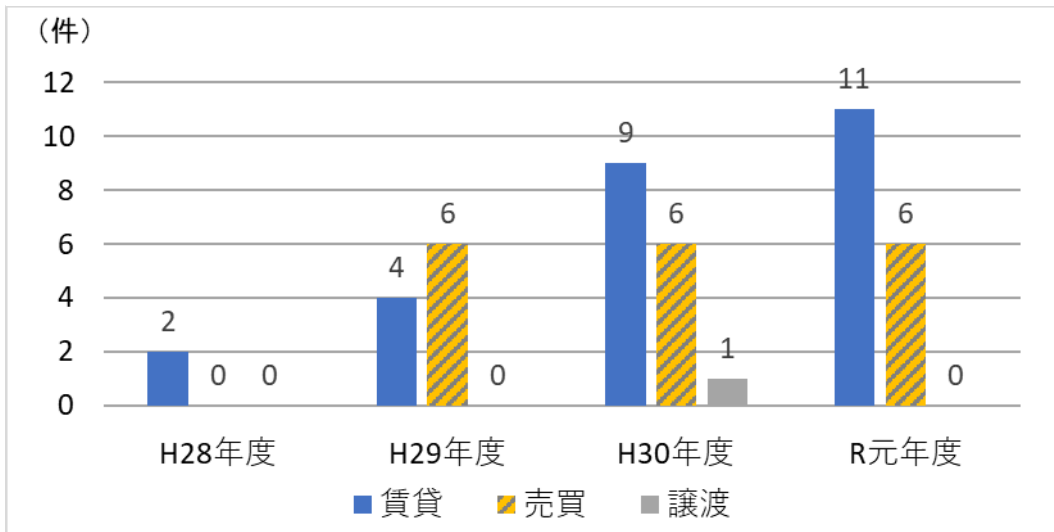
■図表 空き家バンク成立件数\_成約者の属性（町内・外）

【資料：地域支援課】



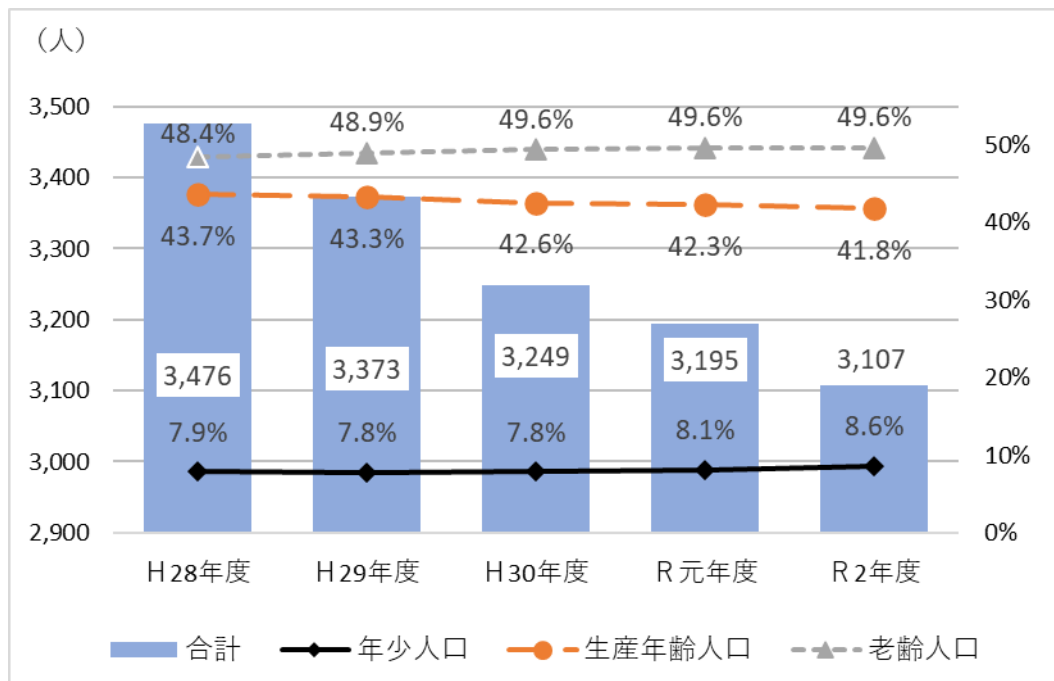
■図表 空き家バンク成立件数\_契約の形態

【資料：地域支援課】



■図表 人口構成比率の変化（直近5年間）

【資料：振興課】



## 施策がめざす 将来の姿

- 移住及び転居希望者がそれぞれに合った住居を選択することができます。
- 暮らし始める人、暮らし続ける人を後押しする支援策があります。
- 移住希望者を「ともに暮らす仲間」ととらえ、行政・民間事業者・地域住民の連携による受け入れ態勢が整っています。

## 目標値

施策の目標指標	現状値		目標値
	2014 (平成 26)年度	2019 (令和元)年度	2025 (令和 7)年度
総人口 (人)	3,446	3,125	2,841

※第2期東栄町人口ビジョン図表9の将来展望人口

## 個別施策

### 1 住居の選択

町には、公営住宅、特定公共賃貸住宅、若者定住住宅、空き家、民間アパートなど様々な住居の選択肢があります。

今後も町外からの移住希望者や、町内転居希望者のニーズに合った住居を提案できるよう努めます。

そのため、公営住宅等の長寿命化計画及び公営住宅等維持修繕計画に基づく適正な施設整備と維持管理に取り組みます。

今後も自然減を原因とした人口減少により、空き家は増加していく見込みです。

空き家バンク制度による空き家の利活用を推進します。利活用には、空き家の所有者はもちろん、地域住民の受け入れ態勢も重要です。また、利活用にあたっての調整は、不動産に関わる民間事業者との連携強化により、民間の不動産市場の活性化を図ります。

あわせて、東栄町空家等対策計画に基づく空き家の適正管理に努めます。

重要業績指標 (KPI)	現状値		目標値
	(平成 26 年度)	(令和元年度)	(令和 7 年度)
町営住宅改修済戸数 (累計)	0	25	79

具体的な事業の例	主体
公営住宅等長寿命化計画に基づいた町営住宅などの改修工事	町
空き家バンク制度による空き家のマッチング事業	
定住促進空き家活用住宅の実施及び活用	
「東栄町における空き家等古民家の活用に関する包括連携協定」や「東栄町空き家等情報活用制度に関する協定」等を活かした民間の不動産事業者との連携による空き家の紹介	町・ 不動産事業者

## 2 暮らし続けるための支援

これまでの移住定住施策や地域での受け入れ等により、平成 30・令和元年度には転入者数が転出者数を上回った<sup>15</sup>他、町内での転居や住宅新築が相次いでいます。こうした流れを受け、今後は町で新たに暮らしを始める人だけでなく、東栄町での定住を決めた人のスタートアップへの支援に取り組めます。

今後も社会の状況などにより、暮らす人の流れは変化する可能性があります。町での暮らしを希望する人の動向を見究めながら、施策の見直し等によって、暮らし始めることや暮らし続けることを望む人を後押しするための支援を行います。

重要業績指標（KPI）	現状値		目標値
	（平成 26 年度）	（令和元年度）	（令和 7 年度）
状況に応じた施策の見直し	実施	実施	実施

具体的な事業の例	主体
木造住宅の無料耐震診断	町
耐震診断の結果、耐震性確保のための改修工事に対する補助	
町内事業者を利用した町内の住宅改修工事への補助	
東栄町で暮らしたいという想いに寄り添う移住定住施策（とうえい暮らしのカラフルパッケージ）	

## 3 受け入れ態勢の仕組みづくり

これまでも、移住を希望する人に関わり、地域での暮らし方等を教える人がおり、そうした人とのつながりを経て移住を決めた人が数多くいます。町ではこうした移住希望者に関わる人や団体を「移住ソムリエ」として登録制度を行っています。

今後も人口減少によって地域活動の担い手は減りますが、移住ソムリエのような人や団体を増やし、ともに暮らす仲間を地域のみんなで選び、受け入れ、増やしていきます。

<sup>15</sup> 転入者数が転出者数を上回った実績について：平成 30 年度（4 名）、令和元年度（2 名）。住民基本台帳に基づく数のため、51 ページ掲載の社会動態の推移（出典：愛知統計年鑑）とは数値が異なります。また、170 ページのとおり、直近 5 年間では、年齢三区分別人口における年少人口の数は横ばい、率は上昇傾向にあります。



重要業績指標（KPI）	現状値		目標値
	（平成 26 年度）	（令和元年度）	（令和 7 年度）
移住ソムリエ制度の運用	—	運用	運用

具体的な事業の例	主体
人と人をつなぐ人材育成（移住ソムリエ登録制度）	町民・関係人口
移住ソムリエなどと取り組むともに暮らす仲間づくり	
イベントと連携した移住定住相談会	町
町や地域が持っている地域情報可視化と共有（集落カルテ）	町・町民

人が人をつなぐまち ～交流人口から関係人口、そして地域の仲間へ～

人口減少が進む中、関係人口づくりの大切さが様々なところで叫ばれています。

本町においても、自然減を中心とした人口減少が進んでいますが、平成 30 年度及び令和元年度の二か年度はわずかながら社会増となりました。その裏側には、東栄町の「人と人をつなぐ人」の存在があります。

本町へ移住した多くの方は、はじめから移住希望者だったわけではありません。町の自然や、東栄ならではの体験、その店でしか味わえない料理や、そこにしかない宿。そういった地域資源に惹かれて訪れた人が、いつしかリピーターになり、関係人口になり、移住を決意したという人もいます。

こうした人たちのエピソードから、幾度にもわたり町に訪れ、より関係を深めていく人（関係人口）の共通点が明らかになって来ました。多くの方が地域資源そのものだけではなく、その地域資源に関わる人（サービス提供者やその関係者）とのつながりによって町への愛着を深めている、ということです。つながった人の魅力によって、再び訪れたいとなったり、訪れているうちにまた新たな人とつながったり、東栄での暮らしやすさや楽しさを見たり感じたり。

こうした点から、町では人と人をつなぐ人の存在こそが東栄町の魅力であり、町の大きな力だと捉えています。こうした人を「移住ソムリエ」と呼び、今後も地域に暮らす仲間を移住ソムリエや地域みなさんと増やしていきたいと考えています。

## 関係する計画等

- 第 2 期 東栄町人口ビジョン
- 東栄町公営住宅等長寿命化計画
- 東栄町耐震改修促進計画

現状と課題

【現状】

- ・本町には南北に国道 151 号、東西に国道 473 号が通り、広域交流を支える骨格的な道路になっています。
- ・三遠南信自動車道の整備も進められており、国及び県に早期開通を要望しています。
- ・町道については老朽化している橋、舗装及び災害時に危険な法面なども多くあるため、計画的に整備を行っています。

■図表 町内の道路（令和2年3月31日）

【資料：事業課】

種 別	路線数 (本)	実延長 (m)	橋りょう		トンネル		舗装済 延長(m)
			橋数(本)	延長(m)	本数(本)	延長(m)	
国 道	2	34,684	36	1,376	5	1,477	34,684
県 道	10	53,878	54	648	4	231	48,497
町 道	174	161,644	110	1,261	0	0	109,416
合 計	186	250,206	200	3,285	9	1,708	192,597

【課題】

- ・三遠南信自動車道の開通に合わせ、インターチェンジ周辺へのアクセス道路の整備が不十分です。
- ・国道、県道については順次改良工事が進められていますが、未だ幅員が狭く見通しの悪い箇所が多くあります。
- ・町道については、老朽化している橋、舗装及び災害時に危険な法面等が多数あります。
- ・通学路となっている道路の中には、危険であり今後整備が必要な箇所があります。

施策がめざす  
将来の姿

- 三遠南信自動車道の東栄 I C 鳳来峡 I C 間が開通し、快適なアクセスが確保されています。
- 国道、県道の改良工事が進み、安全・安心な走行が可能です。
- 町道に架かる橋、舗装、法面等は適正に点検や改修が行われ、安全・安心な道路環境が整っています。
- 通学路の安全が確保され、児童・生徒は安心して通学しています。



## 目標値

施策の目標指標	現状値		目標値
	2014 (平成 26)年度	2019 (令和元)年度	2025 (令和 7)年度
道路の維持管理	実施	実施	実施

## 個別施策

### 1 町道の整備と適正な維持管理

町道の橋、舗装、法面等は計画的な改修整備等を進め、特に橋梁については5年ごとの点検と計画的な補修工事を行い、安全性を高めていきます。

想定される大地震の際の避難経路を確保するため、災害に強い道路整備を推進します。

人の流れをまちなかの活性化につなげるための道路整備の検討を進めています。

安全・安心な通学路を確保するため、カラー舗装等による歩行空間の整備等を推進するとともに、高齢者にも優しい道路環境の整備を推進します。

重要業績指標 (KPI)	現状値		目標値
	(平成 26 年度)	(令和元年度)	(令和 7 年度)
改修等路線数 (路線) (累計)	6	32	50

具体的な事業の例	主体
橋梁点検・修繕事業	町・県
町道事業	

### 2 主要幹線道路の整備

未改良区間となっている国道 473 号をはじめとする国県道など幹線道路の整備に向けた要望活動を積極的に行います。

幹線道路の整備に伴い発生する残土を受け入れるとともに、受け入れ地の利活用について検討していきます。

重要業績指標 (KPI)	現状値		目標値
	(平成 26 年度)	(令和元年度)	(令和 7 年度)
主要幹線道路整備に関する要望活動の実施	実施	実施	実施

具体的な事業の例	主体
主要幹線道路整備に関する要望活動の実施	町・議会
残土受入れ地の利活用検討	町

### 3 協働による道づくり

町道等において損傷等が生じた場合、町民から損壊状況などの通報等を受け、迅速に修繕が行えるような体制づくりを検討します。

集落等において、町道等の修繕や草刈りなどの保全活動等を行う場合、コミュニティ活動支援事業による助成を行うなど、集落と協働の道づくりを進めます。

重要業績指標（KPI）	現状値		目標値
	（平成 26 年度）	（令和元年度）	（令和 7 年度）
機材の貸し出し	実施	実施	実施

具体的な事業の例	主体
地域の道づくり作業への機材の貸し出し	町

## 関係する計画等

- 町道個別施設計画

## 現状と課題

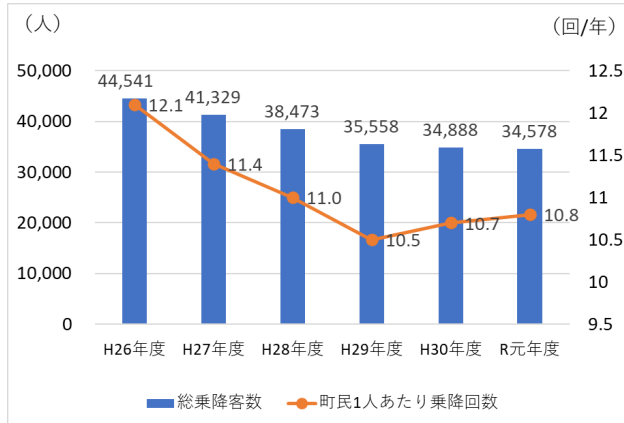
### 【現状】

- ・町営バスが町内5路線を運行しており、平成22年1月からは、東栄町、設楽町、豊根村の3町村間を結ぶ基幹バスの運行が開始され、重要な交通手段となっています。また、会員登録した上で電話予約する予約バスを運行し、交通空白地帯の解消を図っています。
- ・高齢者を中心に、東栄医療センターや町外医療機関への通院、日常生活に必要な買い物等のために利用されている他、小学生、中学生、高校生の通学手段としても利用されています。東栄医療センター通院の利便性向上のため、11時台のバスについて試験運行を実施した後、本数の増便を行いました。
- ・町外への通院や通学のため、JR飯田線の運行ダイヤに町営バスの運行時刻を合わせるなどの配慮をしています。
- ・一定以上の介護度の認定を受けている人等が町内の医療機関にかかる際には、福祉タクシー券制度を活用することができます。
- ・バスの便数が少ないこともあり、現在は町外からの来訪にバスを活用する人は限られています。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、バス車内での3密を回避するため、バス通学時間帯での分散乗車を実施しました。
- ・第2期東栄町総合戦略では、人が滞在し、消費する場所「まちなかターミナル」の形成を目指し、公共交通によって暮らしの利便性を向上するとともにまちなかの面的再生に取り組んでいます。

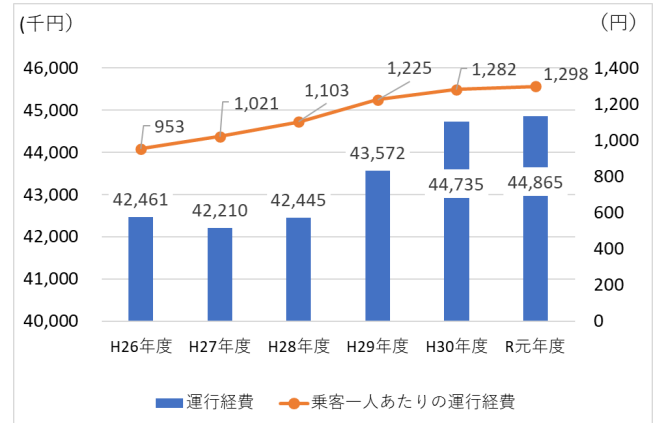
### 【課題】

- ・谷筋に沿って集落が点在する東栄町では、効率的なバス運行が難しく、運行時刻の調整や車両及び運転手の確保も今後の課題となっています。
- ・乗車料金は、基幹バスと支線バスが100円、予約バスが300円で、国と県の補助制度による支援により路線を維持しているものの、財政負担は増加傾向にあります。
- ・人口減少等によって、町営バス及びJR飯田線東栄駅の利用者数は年々減少しています。

■図表 町営バス5路線の総乗降客数と町民1人あたり乗降回数の推移



■図表 町営バスの運行経費と乗客一人あたりの運行経費の推移

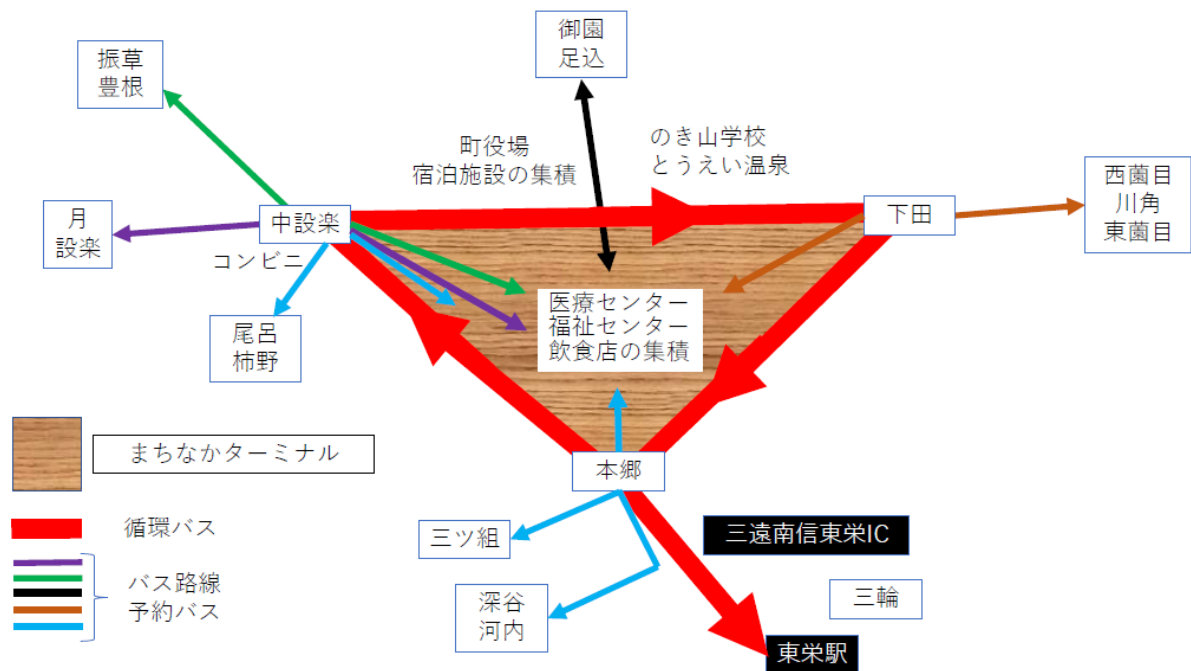


【資料：総務課】

**施策がめざす  
将来の姿**

- 児童や生徒、高齢者等の交通弱者が不便なく移動できる公共交通が確保されています。
- 機能が集まる地区と暮らす地区が公共交通で結ばれ、便利で効率的な暮らしができています。
- 公共交通を活用し、町外から来訪者が訪れています。

■図表 町のイメージ図



【資料：第2期東栄町まち・ひと・しごと創生総合戦略】

## 目標値

施策の目標指標	現状値		目標値
	2014 (平成 26)年度	2019 (令和元)年度	2025 (令和 7)年度
公共交通による集落カバー率(%)	100	100	100

## 個別施策

### 1 暮らしを便利にする公共交通

町営バスは、車を持たない高齢者や、小中学生、高校生にとって、東栄町で暮らし続けるために欠かせないものです。バスなどの公共交通網により、学校、医療や福祉に関する施設や商店などが集まる地区と町内各地区を結び、暮らしやすいまちを作ります。

重要業績指標 (KPI)	現状値		目標値
	(平成 26 年度)	(令和元年度)	(令和 7 年度)
町営バスの年間乗降客数(人)	44,541	34,578	34,100

具体的な事業の例	主体
町内主要拠点循環バス路線の新設	町 交通事業者 町民
予約バスの利便性の向上の検討・実施	
グリーンスローモビリティ <sup>16</sup> 等の自動運転車両の導入やバスロケーションシステム <sup>17</sup> などによる利便性向上に向けた検討	
J R 飯田線特急伊那路号の停車に向けた J R 東海への要望の継続 新城市のバスとの連携の検討	町

<sup>16</sup> グリーンスローモビリティ：電動で時速 20 km 未満で公道を走る事が可能な 4 人乗り以上のパブリックモビリティ。導入により、地域が抱える様々な交通の課題の解決や低炭素型交通の確立が期待される。（出典：国土交通省総合政策局環境政策課  
[http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei\\_environment\\_fr\\_000139.html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_fr_000139.html)）

<sup>17</sup> バスロケーションシステム：車両の現在位置を把握し、インターネットや携帯電話などを通じて、利用者に対して路線バス・高速バスの運行状況やバス停への接近情報などを表示・提供することにより、バス利用の利便性の向上を図るシステム。（出典：国土交通省道路局  
<https://www.mlit.go.jp/road/ITS/j-html/now/sisaku/koukyou/busLocation-system.html>）

## 2 町外とを結ぶ公共交通

JR 飯田線東栄駅発着のバスを引き続き運行し、町外への通学や通院ができるようになります。あわせて町外からの来訪者等が、町の中へ流れ、消費ができるようにすることで、賑わいを生み出します。

重要業績指標 (KPI)	現状値		目標値
	(平成 26 年度)	(令和元年度)	(令和 7 年度)
町営バスの年間乗降客数(人)	44,541	34,578	34,100

※バス利用の目的や乗降者の属性等は区分困難なため、個別施策 1 と共通の KPI としています。

具体的な事業の例	主体
J R 飯田線東栄駅発着のバス運行	町
J R 飯田線特急伊那路号の停車に向けた J R 東海への要望の継続	

## 3 移動の利便性を向上するための調査研究

限られた人員や交通資源を最大限に活用し、移動の利便性をさらに向上させるため、I C Tなどを活用して、様々な交通手段を連携させます。そのため、自動運転車両や経路検索システムの導入などの調査研究を進めます。


重要業績指標 (KPI)	現状値		目標値
	(平成 26 年度)	(令和元年度)	(令和 7 年度)
移動の利便性を向上させるための調査研究	—	—	調査研究

具体的な事業の例	主体
グリーンスローモビリティ等の自動運転車両の導入やバスロケーションシステムなどによる利便性向上に向けた検討	町 交通事業者 町民

### 関係する計画等

- 北設楽郡地域公共交通網形成計画



基本施策	4 情報基盤	重点 2(2)	戦略 ③	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	11 住み続けられるまちづくりを
					

**現状と課題**

【現状】

- ・情報基盤の整備を図るため、北設楽郡3町村では、平成20年度から22年度にかけて公設公営の北設情報ネットワークを構築し、地上デジタル放送の受信、高速インターネットサービスの提供、さらには移動通信用鉄塔施設の整備とあわせて携帯電話の通話エリアの拡大を図ることができました。また、北設情報ネットワークは、平成28年度からは北設楽郡3町村で組織する一部事務組合に管理を移行し、情報通信基盤の整備、計画的更新、維持管理に努めています。

【課題】

- ・北設情報ネットワークは、整備完了から10年が経過し、通信機器や光ファイバー網の更新が順次必要となってきています。また、それに加えて当町のような山間部では都市部や平たん部と比べ、倒木、風雪害などの発生リスクが高くなっています。
- ・情報通信社会は急速に高度化しており、これまで以上に、医療、教育、公共交通等、暮らしを支えるために欠かせない社会基盤となっています。

**施策がめざす  
将来の姿**

- Wi-Fi環境整備に加え、5Gなどの新時代に対応した情報基盤整備が行われています。
- 「暮らしを支える」インフラの一つとして情報基盤整備が進むことにより、都市部と大きな格差なく仕事や子育て、教育等が行えます。
- 「新しい暮らしに挑戦できる」場として、リモートワークやワーケーション等山間地域に仕事の拠点を持つ人を受け入れる環境整備が進みます。

**目標値**

施策の目標指標	現状値		目標値
	2014 (平成26)年度	2019 (令和元)年度	2025 (令和7)年度
北設情報ネットワークのインターネット加入率 (%)	25	27	32

## 個別施策

### 1 北設情報ネットワークの維持・研究・検討

北設楽郡3町村が共同して北設情報ネットワークを維持するとともに、設備の計画的な更新を図ります。あわせて、5Gなど新時代の情報基盤が登場しており、これまで以上に高度化した情報基盤整備を行うための早急な調査研究や、本町に合った手段の検討を行う必要があります。今後も県や国とも連携し、維持整備にあたっての財源確保や情報の収集に努めます。

また、北設情報ネットワークをより効率的に運営するため、民間事業者への運営委託等についても引き続き検討をしていきます。

重要業績指標（KPI）	現状値		目標値
	（平成26年度）	（令和元年度）	（令和7年度）
北設情報ネットワークの人口カバー率（％）	100	100	100

具体的な事業の例	主体
北設情報ネットワークの維持、設備の計画的更新	北設広域事務組合・町
この地域に合った情報基盤整備についての調査研究や導入に向けた検討	北設広域事務組合 ・町

### 2 時代に即した計画的・戦略的な情報基盤整備

北設情報ネットワークを活用し、公共施設などの町内の主要拠点を中心に、Wi-Fi環境等の整備をはじめとした情報基盤整備を行うことにより、広報、教育、観光分野だけでなく、避難所での災害時の情報収集等有事の際に利用できる仕組みづくりを検討します。

情報基盤整備とあわせて、事業者との協働により、リモートワークやワーケーション等山間地域に仕事の拠点を持つ人を受け入れる環境整備を進めるなど、まちの活性化につなげるための取組を検討します。

このように次世代の暮らしに必要な基盤整備を行うことにより、時代にあった方法で安全・安心な暮らしを支えると同時に、若い世代も町での暮らしを選択できる環境を整えます。

重要業績指標（KPI）	現状値		目標値
	（平成26年度）	（令和元年度）	（令和7年度）
公共施設のWi-Fi環境整備箇所（箇所）（累計）	3	7	20

具体的な事業の例	主体
公共施設の Wi-Fi 環境の整備	町・指定管理者
リモートワークやワーケーション等を受け入れる環境整備	事業者・町
暮らしを支え、次世代につなぐための情報基盤整備に関する計画策定	町